

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「ものづくりは人づくり」の合言葉のもと、大阪の産業界を担うものづくり人材を育成する魅力ある学校をめざす。

1. 社会生活を営む上で基盤となる基本的な生活習慣の確立と、自己管理・時間厳守の徹底を図る。
2. 正しい規範意識や人権意識とともに、高い自己肯定感と自他を大切にす「知・徳・体」の調和の取れた「豊かな心」を育成する。
3. 社会に貢献できる力（学力・技術力・コミュニケーション能力・礼儀・自主自律・チャレンジ精神）の育成を図る。
4. キャリア教育の充実と3年間一貫した組織的な進路指導を推進し、目的意識を持って将来の職業選択を行うことができる力を育成する。

2 中期的目標

1 新学習指導要領を確実に実施し、授業改善に努め、「確かな学力」を育成する。

(1) 「わかる授業」を展開し、生徒に基礎的・基本的な学力を定着させ、「確かな学力」と専門分野の技術・技能を習得させる。

ア 少人数授業の展開やICTの効果的な活用とともに、1人1台端末によるオンライン学習を積極的に推進し、「わかる授業」を展開する。

イ 公開授業や研究授業を積極的に実施し、合評会などを通して、教員がお互いの授業を批評しあえる雰囲気や環境を整備し、研鑽し続ける教員集団を構成することにより、学校全体の授業力を向上させる。

ウ 観点別評価の導入や時代に合わせて評価基準等を見直し、授業改善に取り組み、生徒の学びに向かう意欲と授業満足度を向上させる。

エ 放課後セミナー（いくこうの森）等を積極的に開催し、生徒の学力向上に努める。

*教員向け学校教育自己診断で「多様な観点から生徒の成績を評価している」肯定率を向上させ、令和7年度に90%以上を達成する。(R4:75%)

オ 「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業を展開する。

*教科横断的な授業のカリキュラム（工業科と共通教科とのコラボ授業）を策定し、課題解決力の育成に努める。(新)

(2) 「ものづくり」の基礎・基本を基に、生徒にAI・IOTなど今後の産業社会で重要性が増していく「今日的なものづくり」分野についての知識や技術を習得させる。

ア スマート専門高校の実現（デジタル化対応産業教育装置の整備）で配備されたターニングセンタシステム、ロボット制御遠隔操作システム、小型レーザー加工システムを活用した実習カリキュラムを各専門学科において構築し、特色ある教育活動を展開する。(新)

イ 「ものづくり工房」と地元企業等との連携などの体験活動を積極的に取り入れ、今日の産業社会における「ものづくり」に触れることで、専門的なスキルを習得させるとともに、自身の製作物が学校や地域社会に役に立つという自己有用感を育てる。また、生徒が自ら考え、行動する経験から、ものづくりを通じた課題解決力や深い学びを得るように努める。さらに参加した教員が「ものづくり工房」の取組から得た経験から、主体的・対話的な深い学びを指導する方法を整理し、新学習指導要領に合わせた新たなものづくりのカリキュラム編成に活かす。

*生徒向け学校教育自己診断で「ものづくりについて学び、好きになれた」肯定率を向上させ、令和7年度に80%以上を達成する。(R4:77%)

(3) PBL（課題解決型学習）等の「習得・活用・探究」という学びを通して、生徒に、自身の製作物や将来製作するものが、社会の中でどのように役立つか等、学んだことの意義を理解させ「学び」や「ものづくり」の楽しさを実感させることにより、主体的に学習に取り組む態度と課題解決力を育成する。

ア PBL委員会と教務・進路指導課が連携したプログラムを展開し、キャリアガイダンス（1年生）や総合的な探究の時間（2年生）等において学科や教科の垣根を越えた教科横断的な学習を推進する。

*生徒向け学校教育自己診断（R3まで「学校に関するアンケート（3年生徒用）」）で「学校の授業は楽しかった」

肯定率(R2:83%、R3:83%、R4:73%)を向上させ、令和7年度に85%以上を達成し、それを維持する。

(4) 資格・検定等への積極的な挑戦とその取得・合格をめざした指導を行う。

ア 自己肯定感を育むために、国家資格・各種検定試験等の取得・合格をめざすとともに、各種コンテスト等への応募や競技会等の出場など生徒が達成感を味わえるような活動に積極的にチャレンジさせる。

*卒業までに3つ以上の検定・資格を受検させ、その取得・合格をめざす。ジュニアマイスター顕彰（R2:5人、R3:4人、R4:4人）5人以上を維持する。

(5) 学習面やソーシャルスキルの面などに課題のある生徒の情報を集約・共有し、支援体制を整備することにより、特別支援教育を充実させる。また、生徒一人ひとりに「わかる授業」が展開できるように、生徒の実態把握に努め「授業のユニバーサルデザイン化」を推進する。

ア 従来からの特別支援体制を基本としつつ、生徒の実態にあわせた新しい支援体制へと教員の意識改革を行う。また、地域の支援学校等と連携し、生徒の実態に合わせた支援や指導方法等を確立する。

*外部講師を招いての講演会を年間1回以上開催する。

2 基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成に努め、豊かな人間性を育成し、生徒の自己実現を支援する。

(1) 教員が生徒一人ひとりの学習歴や生活背景を理解し、生徒との信頼関係に基づいた毅然とした生徒指導を行う。

ア 「中高連携」・「基礎学力の充実」・「人間関係づくり」を念頭に、問題行動の未然防止や再履修生徒や転・退学生徒の減少に努める。(新)

*転学、退学生徒の割合を（R2:11%、R3:13%、R4:10%）を令和7年度までに5%以下にする。

*生徒の遅刻者数「0」の日を年間3日にする。(新)

*新入生の出身中学校を訪問し、生徒の実態把握に努める。

イ 挨拶指導・遅刻防止指導・携帯電話マナー指導・校内美化指導・交通安全指導を徹底するとともに、学校全体で5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）を推進する。

*交通安全、薬物乱用防止、SNSに関する生徒向けの講習会を年各1回開催する。

- (2) 人権教育や様々な講演会・研修を推進し、道徳心・社会性を育成する。また、生徒の自己肯定感を育み、生徒の居場所としての学校づくりを推進する。
- ア 発達段階に応じた人権教育や交通安全、薬物乱用防止、SNSに関する指導等の多彩な講演会・研修を実施する。
*生徒向け学校教育自己診断（R3まで「学校に関するアンケート（3年生徒用）」）で「命や人権の大切さやいじめを許さないという考え方をしっかり学ぶことができた。」肯定率（R2：84%、R3：88%、R4：82%）を向上させ、令和7年度に90%以上を達成する。
- イ 生徒がさまざまな差別や偏見の実態を深く学び、人権尊重の精神を高め、差別やいじめを許さない支えあえる仲間づくりに努めるよう指導する。
*LHRを活用し、人権教育学習を年間各学年1回以上実施する。
- ウ 各分掌、各学科、学年等が組織的に連携し、共通理解を図るために連絡会を定期的に行う。また、生徒一人ひとりの家庭環境等に留意した丁寧な「生徒に寄り添う指導」を徹底する。また、放課後補習等の生徒の居場所づくりを推進すると共にナイスカードの配付等、生徒の自己肯定感を育む取り組みを積極的に行う。
*年1回1年生ケース会議を開催し、「1年生総合分析シート」の結果をもとに、全教職員で新入生の情報を共有する。
*ナイスカードの年間集計枚数150枚以上を維持する（R3：103枚、R4：153枚）。
- (3) 自主性・自立性を育成するキャリア教育を推進し、生徒の自己実現を支援する。
- ア 3年間を見通した進路指導計画に基づき、キャリア教育の充実に努め、生徒の豊かな勤労観・職業観の育成に取り組む。（新）
*生徒向け学校教育自己診断（R3まで「学校に関するアンケート（3年生徒用）」）の「将来の進路実現について、役に立つ学習内容である」肯定率（R2：88%、R3：74%、R4：81%）を向上させ、令和7年度に90%以上を達成する。
- イ 生徒の夢や希望を実現するために、PBLと連携しながら、発達段階に応じた系統的なキャリア教育・職業教育を行い進路指導の充実に図る。
*就職内定率100%を堅持する。適切な就職指導により就職一次内定率80%以上を維持する。（R2：78%、R3：82%、R4：83%）
*LHR時に年間を通して進路セミナーを開催する。
*PBLを活用し、外部機関との連携によるジュニア・インターンシップを行い、啓発的経験として、将来への職業選択について意識づけを行う。
*科目「キャリアガイダンス」及び「総合的な探究の時間」等の実践的な学習を通して、主体的に進路を選択する力の育成に取り組む。（新）
- (4) 読書活動を推進し、生徒に読書の大切さを指導することにより、豊かな心を育てる。
- ア 授業での図書館利用を推進する。図書館の開館時間を確保し、来室者数を増加させて図書の出し出し数を増やす取り組みを行う。
*年間来室者数を向上させ、令和7年度に1500人以上にする。（R2：1387人、R3：854人、R4：827人）
*年間の図書貸出し数を向上させ、令和7年度に1200冊以上にする。（R2：825冊、R3：1254冊、R4：1141冊）

3 安全・安心で魅力ある開かれた学校づくりを推進する。

- (1) 生徒会活動、部活動の活性化を推進するとともに、学校の魅力化に努め、外部へ積極的・効果的に発信する。
- ア 学校説明会、体験入学や外部進学イベント等の広報活動に生徒が主体的かつ積極的に関わるように指導し、生徒自らが学校の魅力発信に取り組むことで学校への帰属意識を芽生えさせる。また、中学生や保護者など対象を明確にした情報発信を行う。（SNS等）（新）
*学校説明会、体験入学を実施し、令和7年度に中学生参加数のべ100名以上にする。（R2：107人、R3：90人、R4：100人）
- イ 専門人材の活用、地域企業等と連携を充実させる。
生野区役所と連携した「IKUNO 未来教育ネットワーク」に参画し、地域社会の構成員として、地域の活性化・発展に寄与する。
*外部の専門人材の活用や地域企業等との連携を通して、教育内容の充実に図る。（教員研修会やワークショップを年間5回以上実施する。）（新）
- ウ 部活動の活性化に向けた取組を積極的に推進する。
*部活動の加入率を向上させ、令和7年度以降も30%を維持する。（R2：17%、R3：24%、R4：31%）
- (2) 保護者や地域社会と連携し、PTA活動や学校運営協議会等の一層の充実に努める。
- ア 保護者向け公開授業の実施を継続するとともに、PTA活動や学校運営協議会等と連携して、より一層充実した教育活動となるように努める。
*保護者向け学校教育自己診断（R3まで「学校に関するアンケート（3年保護者用）」）の「学校は、授業や学校行事等の情報提供について努力をしている」肯定率（R2：84%、R3：77%、R4：93%）を令和7年度まで90%以上を維持する。
- (3) 健康や体力を保持増進する力を育成する。
- ア 校内に危険な場所や汚れている場所がないかを確認し、危険の排除や校内美化を図る。また、緊急時に適切な対応ができるよう、救急体制を整える。生徒及び教職員の救命救急講習会を開催し、救命に対する意識の向上を図る。学校生活における新型コロナウイルス感染症感染予防対策を継続して実施する。特に、生徒並びに教職員一人ひとりができる基本的感染予防対策（手洗い・手指消毒、換気、ソーシャルディスタンス）を徹底するなど、積極的に啓発活動を行う。
- イ 食物アレルギーの対応マニュアルを策定・見直しを行い、校内研修等を実施するなど、緊急時の対応に備える。（年1回実施）（新）
*校内の大掃除を毎月1回実施し、校内の環境を整備する。また、教職員・生徒の保健委員による校内美化パトロールやウォータークーラーの清掃・水質チェックを毎月1回実施し、衛生環境を整える。さらに、各学期末に校内の安全点検を実施し、安全維持に努める。
*学校保健委員会では、外部講師による講演会を実施し、文化祭での発表内容や各種検診結果についても報告する。
- (4) 生徒の防災意識と危機対応能力を高める。
- ア 防災マニュアルを更に見直すとともに、防災教育を徹底することで、生徒の防災意識と危機対応能力を高めさせる。
*専門的な知識技能を備えた教員を育成し、研修等を通して教員の危機防災の向上に努める。（新）
*避難訓練等、防災に関する行事を年間2回以上実施する。

4 教員の資質と学校の組織力を向上させるなどの働き方改革に取り組む。（新）

- (1) 共に研鑽しあえる職場づくり
- ア OJTを推進する上で、豊かな経験を持つ教員が経験年数の少ない教員に対して気軽にアドバイスする雰囲気醸成し、共に研鑽しあえる組織を構築する。
*外部講師を招いて授業力向上に係る教員研修会を年間1回以上開催する。
- イ コンプライアンスの徹底やハラスメント撲滅、体罰防止等について積極的に啓発活動を行い、教員の資質向上に努める。毎月の学校安全衛生委員会で「働き方改革」の取り組みについて検討する。その一環として、全校一斉退庁日を毎週1回設定する。また、校務分掌の再編や工業科における教科連携に取り

<p>組む。(新)</p> <p>*時間外勤務月 80 時間以上の教職員を教職員全体の 10% (R3 : 14%、R4 : 7%) にする。</p> <p>ウ 専門的な知識技能を備えたリーダーを育成し、研修等を通して ICT 活用指導力の向上に努める。</p> <p>*インターネット関連企業の認定トレーナーを取得するために、1 名以上に関連する試験を受験させる。(新)</p>
--

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 5 年 12 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【学習指導等】 生徒を主体にした授業展開をするため、積極的な ICT の活用による、新しい授業づくりに努め、「確かな学力」を育成した。「授業などでコンピュータやプロジェクト等 ICT を活用している」(生徒: 93%、教員 80%) 「ものづくりについて学び、好きになれた」(生徒: 84%) 「日々ものづくりの精神を意識しつつ、授業や教育活動を行っている(工業科教員: 93%)」学びやものづくりの楽しさを実感し、主体的に学習に取り組む態度と課題解決力の育成に努めることができた。一方、「学校に行くのが楽しい」という問いには(生徒: 67%) と少し低い結果となっている。部活動の加入率が昨年度に比べ、4%向上したが、「この学校の部活動は活発である」(保護者: 55%) の結果を含め、これらを分析し、教職員一人ひとりが生徒理解を深め、校内の行事や活動を工夫し生徒一人ひとりが主体的に参加できるものにするのが課題である。</p> <p>【生徒指導等】 豊かな人間性を育成し、生徒の自己実現を支援するため、人権に関する講演会や研修の実施、PBL と連携した人権意識の醸成、キャリア教育・職業教育の充実を行った。「命や人権の大切さやいじめを許さないという考え方をしっかり学ぶことができた」(生徒: 88%)、「学校は、子どもに命を大事にする心や社会ルールを守る態度を養おうとしている」(保護者: 95%) という結果を得た。学校による就職一次内定率は 74% と昨年度を下回ったが、就職内定率は 100% を達成した。今後も進路実現に向け継続した取り組みを行う。遅刻者数「0」については、3 日間の目標で 2 日を達成した。</p> <p>【学校運営】 ・魅力ある開かれた学校づくりのため、学校説明会、体験入学や外部進学イベントに参加し、広報活動に努めた。各工業科では来場者へのプレゼントを作成し、ものづくりの知識・技能を高める機会とすることができた。 ・「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」(教員: 89%)、「到達度の低い生徒に対する学習指導について、全校的課題として取り組んでいる」(教員: 91%)、「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」(教員: 89%) という結果であった。来年度は、これらが 100% になることをめざし教職員が研鑽し続けることができるよう、学校全体のゴールを共有する。また、各所で積極的な連携を行い目標を達成する。</p>	<p>第1回 (R5 5/22)</p> <ul style="list-style-type: none"> 働き方改革と学校の魅力化の両立について、作業効率の悪い作業を書き出し、その問題点を改善していくとよい。 中学校訪問は中学校・高校が共に情報を共有することができ、非常に有用と考える。 薬物乱用の若年化が問題となっているため、薬物に対して正しい知識を身につけさせてほしい。 アレルギーに関する教育は命に係ることでもあるので、身近なアレルギーに関する問題に触れることで意識してほしい。 生徒が希望しているクラブがない場合、そのニーズに応じてクラブを作ることができないか。 <p>(回答) → 「大会に出場したい」、「レクリエーションとして楽しみたい」といった生徒のニーズが幅広く、また活動にあたり専門的な知識が必要なクラブもあるため、設置が難しい。ペアリング制度を活用し、生徒の希望には沿いたい。</p> <p>第2回 (R5 10/14)</p> <ul style="list-style-type: none"> 時間外勤務の要因には、どのようなものがあるのか? ⇒ (回答) 学校行事のため遅くまで取組んだり、土日に部活動を行ったりしている。毎週月曜日を定時退庁日と設定するなど、個々に声掛けを細目に行い対策をしている。 救命救急講習会の実施状況について教えてほしい。 ⇒ (回答) 例年、生徒向けと教員向けで日程を分け実施している。今年は、意識の高い 1 年生が多く、たくさんの生徒が参加していた。 <p>第3回 (R6 2/27)</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和 5 年度学校経営計画及び学校評価の達成状況・令和 6 年度学校経営計画について承認された。 フレックスタイム制やリモートワークなど、働き方改革のためのアドバイスをいただいた。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4 年度値]	自己評価
1 確かな学力の育成	(1) 基礎的・基本的な学力の定着 「確かな学力」と専門分野の技術・技能の習得	(1)	(1)	
	ア ICT の活用とオンライン学習を積極的に推進する。	ア 少人数授業の展開や ICT の活用により「わかる授業」を展開する。また、1 人 1 台端末によるオンライン学習を推進するための校内環境整備と教員向け研修を積極的に行う。	ア 教員向けアンケート「ICT を積極的に授業で取り入れている」の回答 80% 以上を維持する。 [R4 : 82%]	ア 教員向けアンケート「ICT を積極的に授業で取り入れている」の回答 80% (○)
	イ 組織的な公開授業及び研究授業の実施	イ 公開授業や研究授業を積極的に実施し、合評会などを通して、教員がお互いの授業を批評しあえる雰囲気や環境を整備し、研鑽し続ける教員集団を構成することで、学校全体の授業力を向上させる。	イ 授業見学週間による教員授業参観率 60% 以上にする。 [R4 : 36%]	イ 授業見学週間(年間 2 回)の教員授業参観率 38% にとどまった。(1 回目 32%、2 回目 44%) (△) ・校内分掌 IPT と連携し、参観率向上のための工夫を行った結果、昨年度より参加率が向上した。来年度も引き続き工夫を重ねる。
	ウ 生徒の学びに向	ウ 観点別評価の導入や時代に合わせて評価基準	ウ 生徒向け学校教育自己	ウ 生徒向け学校教育自己診断「多様な観点から生

府立生野工業高等学校

<p>かう意欲と授業満足度の向上</p>	<p>等を見直し、授業改善に取り組み、生徒の学びに向かう意欲と授業満足度を向上させる。</p>	<p>診断「多様な観点から生徒の成績を評価している」の肯定的な回答を90%以上にする。 [R4:76%]</p>	<p>徒の成績を評価している」の肯定的な回答88%とわずかにおよばなかった。昨年度と比べると少しずつ評価についての見直しが進み12%増加した。(△)</p>
<p>エ 生徒の学習保障と学力向上を図る</p>	<p>エ 放課後セミナー（いくこうの森）等を積極的に開催し、生徒の学力向上に努める。</p>	<p>エ 実施1回あたりの平均参加人数を10人に向上させる。 [R4:5.9人]</p>	<p>エ 実施1回あたりの平均参加人数4.9人だった。(△) 来年度は生徒へのPR方法の工夫を行い生徒の学力向上に努める。</p>
<p>(2)「今日的なものづくり」分野についての知識や技術を習得させる。</p>	<p>(2)</p>	<p>(2)</p>	<p>(2)</p>
<p>ア 新設備を活用した新しい今日的な実習カリキュラムの充実</p>	<p>ア スマート専門高校の実現（デジタル化対応産業教育装置の整備）で配備されたターニングセンタシステム、ロボット制御遠隔操作システム、小型レーザー加工システムを活用した実習カリキュラムを各専門学科において構築し、特色ある教育活動を展開する。</p>	<p>ア 生徒向け学校教育自己診断「ものづくりについて学び、好きになれた」の肯定的な回答を80%以上にする。 [R4:77%]</p>	<p>ア 生徒向け学校教育自己診断「ものづくりについて学び、好きになれた」の肯定的な回答84%だった。(○)</p>
<p>イ 「ものづくり工房」推進による生徒の自己有用感の育成</p>	<p>イ 「ものづくり工房」と地元企業等との連携などの体験活動を積極的に取り入れ、今日の産業社会における「ものづくり」に触れることで、専門的なスキルを習得させるとともに、自身の製作物が学校や地域社会に役に立つという自己有用感を育てる。</p>	<p>イ 「ものづくり工房」に参加した生徒にアンケートを実施し、肯定的回答80%以上を維持する。 [R4:100%]</p>	<p>イ 「ものづくり工房」に参加した生徒アンケートでの肯定的回答80%だった。(○) ・地域の専門学校等との連携によるガラス細工のワークショップを実施した。</p>
<p>(3)主体的に学習に取り組む態度と課題解決力を育成する。</p>	<p>(3)</p>	<p>(3)</p>	<p>(3)</p>
<p>ア PBL（課題解決型学習）の導入及び推進</p>	<p>ア PBL（課題解決型学習）等「習得・活用・探究」という学びを通して、生徒に、自身の製作物や将来製作するものが、社会の中でどのように役立つかなど、学んだことの意義を理解させ「学び」や「ものづくり」の楽しさを実感させる。また、個人及びグループワークによる調べ学習や製作実習及びソーシャルスキルトレーニング・企業へのインターンシップ等を行うことにより、課題解決力・コミュニケーション力・チーム力・提案力を育成する。</p>	<p>ア 生徒向け学校教育自己診断「学校の授業は楽しかった」の肯定的な回答を85%以上にする。 [R4:73%]</p>	<p>ア 生徒向け学校教育自己診断「学校の授業は楽しかった」の肯定的な回答84.1% (△) ・本年度初めて、2年生の総合的な探究の時間に企業や地域と連携し多くの生徒が「ものづくり」の楽しさを実感し、課題解決力・コミュニケーション力・チーム力・提案力を育成することができた。</p>
<p>(4)資格・検定等への積極的な挑戦とその取得・合格をめざした指導を行う。</p>	<p>(4)</p>	<p>(4)</p>	<p>(4)</p>
<p>ア 生徒の達成感や自己肯定感を育む</p>	<p>ア 国家資格・各種検定試験等の取得・合格をめざすとともに、各種コンテスト等への応募や競技会等の出場など生徒が達成感を味わえるような活動に積極的にチャレンジさせる。</p>	<p>ア 全国工業高等学校長協会ジュニアマイスター顕彰（各種資格・検定・競技大会等で獲得したポイント20点以上の者）を5人以上にする。[R4:4人]</p>	<p>ア ジュニアマイスター顕彰 ゴールド3人、シルバー2人、ブロンズ4人、合計9人。(◎) ・電気工事士技能競技大会（高校生の部）技能賞(○)、大阪府高校生溶接技術コンクール上位入賞できなかった。(△)</p>

府立生野工業高等学校

	<p>(5)特別支援教育を充実させ、生徒の実態把握に努め</p> <p>ア 生徒の実態にあわせた新しい支援体制へと教員の意識改革を行う</p>	<p>(5)</p> <p>ア 従来からの特別支援体制を基本としつつ、生徒の実態にあわせた新しい支援体制へと教員の意識改革を行う。また、地域の支援学校等と連携し、生徒の実態に合わせた支援や指導方法等を確立する。</p>	<p>・電気工事士技能競技大会（高校生の部）努力賞以上、大阪府高校生溶接技術コンクール優秀賞以上を獲得する。</p> <p>(5)</p> <p>ア 外部講師を招いての講演会を年間1回以上開催する。[R4：1回]</p>	<p>ア 外部講師を招聘し講演会を1回実施した。(○)</p> <p>・「読み書き配慮について」をテーマに講演会を開催し、具体的な支援や指導方法等について研鑽することができた。</p>
<p>2 基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成</p>	<p>(1) 教員が生徒一人ひとりの学習歴や生活背景を理解し、生徒との信頼関係に基づいた毅然とした生徒指導を行う。</p> <p>ア 「中高連携」・「基礎学力の充実」・「人間関係づくり」を念頭に、問題行動の未然防止や再履修生徒や転・退学生徒の減少に努める。</p> <p>イ 挨拶指導・遅刻防止指導・携帯電話マナー指導・校内美化指導・交通安全指導を徹底するとともに、学校全体で5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）を推進する。</p> <p>(2)人権教育や様々な講演会・研修を推進し、道徳心・社会性を育成する。</p> <p>ア 多彩な講演会・研修を実施する。</p> <p>イ 差別やいじめを許さない支えあえる仲間づくりに努</p>	<p>(1)</p> <p>ア 中学校との情報共有を充実させ、生徒の生活背景や学力等の実態把握に努め、生活面および学力面などの支援体制を確立し、問題行動の未然防止、再履修生徒や転・退学生徒の減少に努める。</p> <p>イ 交通安全、薬物乱用防止、SNSに関する生活指導についての生徒向け講習会を開催し、自己管理能力の育成に努める。</p> <p>(2)</p> <p>ア 発達段階に応じた人権教育や交通安全、薬物乱用防止、SNSに関する指導等の多彩な講演会・研修を実施することにより、生徒の人権意識の醸成に努める。</p> <p>イ 生徒がさまざまな差別や偏見の実態を深く学び、人権尊重の精神を高め、差別やいじめを許さない支えあえる仲間づくりに努めるよう</p>	<p>(1)</p> <p>ア 転退学者の割合を減少させ、令和6年度までに5%以下を維持する。[R4：1%]</p> <p>イ 生徒の遅刻者数「0」の日を年間3日にする。[新規]</p> <p>(2)</p> <p>ア 生徒向け学校教育自己診断「命や人権の大切さやいじめを許さないという考え方をしっかり学ぶことができた。」の肯定的な回答を90%以上にする。[R4：82%]</p> <p>イ LHRを活用し、人権教育学習を年間各学年2回以上実施する。</p>	<p>ア 転退学者の割合3%。(○)</p> <p>イ 2日間達成(△)</p> <p>遅刻減少に向け、切り口をかえて実施する必要がある。</p> <p>ア 生徒向け学校教育自己診断「命や人権の大切さやいじめを許さないという考え方をしっかり学ぶことができた。」の肯定的な回答88%だった。(△)</p> <p>・生活指導及び人権に関する講習会を計10回実施することにより、生徒の人権意識の醸成に成果をあげることができた。</p> <p>イ LHRを活用し、人権教育学習を1年生2回、2年生1回、3年生2回、全体1回実施するなど生徒の実態に合わせた学年別の学習会を実施し、きめ</p>

府立生野工業高等学校

	<p>める。</p> <p>ウ 生徒一人ひとりの家庭環境等に留意した丁寧な「生徒に寄り添う指導」を行う。</p> <p>(3) 生徒の自己実現を支援する。</p> <p>ア 3年間を見通した進路指導計画を立てる。</p> <p>イ 発達段階に応じた系統的なキャリア教育・職業教育を行う。</p> <p>(4) 読書活動を推進し、豊かな心育てる。</p> <p>ア 授業での図書館利用を推進する。</p>	<p>指導する。</p> <p>ウ 生活指導課を中心に、各分掌、各学科、学年等が組織的に連携し、情報共有する。また、放課後補習等の生徒の居場所づくりを推進すると共にナイスカードの配付等、生徒の自己肯定感を育む取組みを積極的に行う。</p> <p>(3)</p> <p>ア キャリア教育の充実に努め、生徒の豊かな勤労観・職業観の育成に取り組む。</p> <p>イ 生徒の夢や希望を実現するために、PBLと連携しながら、発達段階に応じた系統的なキャリア教育・職業教育を行い進路指導の充実に図る。</p> <p>(4)</p> <p>ア 授業での図書館利用を推進する。また、図書委員会を活性化させ、図書館ニュースを充実させることにより、来室者数を増加させて図書の貸出し数を増加させる取組みを行う。</p>	<p>[R4:各学年2回実施]</p> <p>ウ ナイスカードの年間集計枚数 150 枚以上を維持する。 [R4:153枚]</p> <p>(3)</p> <p>ア 生徒向け学校教育自己診断「将来の進路実現について、役に立つ学習内容である」の肯定的な回答を90%以上にする。 [R4:81%]</p> <p>イ 就職一次内定率 80%以上を維持する。 [R4:83%]</p> <p>(4)</p> <p>ア 年間来室者数を向上させ、1000人以上にする。 [R4:827人] また、年間図書貸出し数 1100冊以上を維持する。 [R4:1141冊]</p>	<p>細かく指導を実施することができた。(◎)</p> <p>ウ ナイスカードを135枚配付した。(△) ・居場所カフェなど生徒の居場所づくりに積極的に取組み積極的な情報共有することができた。生徒の自己肯定感を育む取組みを積極的に行うことができた。</p> <p>ア 生徒向け学校教育自己診断「将来の進路実現について、役に立つ学習内容である」の肯定的な回答86%だった。(△)</p> <p>イ 就職一次内定率74%だった。(△) ・新たに1年「キャリアガイダンス」を開設する等、系統的なキャリア教育の充実に努めた。</p> <p>ア 年間来室者数1157人だった。(12月現在)(○) 年間の図書貸出し数は、1484冊で目標を達成することができた。(○)</p>
3 魅力ある開かれた学校づくりの推進	<p>(1) 学校の魅力化に努め、外部へ積極的に情報を発信する。</p> <p>ア 広報活動に生徒が主体的かつ積極的に関わるように指導し、生徒自らが学校の魅力発信に取り組む。</p> <p>イ 専門人材の活用、地域企業等と連携を充実させる。(新)</p> <p>ウ 部活動の活性化に向けた取組みを積極的に推進する。</p> <p>(2) 保護者や地域社会との連携を図る。</p> <p>ア PTA活動や学校運営協議会の一層の充実に努める。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 学校説明会、体験入学や外部進学イベント等の広報活動に生徒が主体的かつ積極的に関わるように指導し、生徒自らが学校の魅力発信に取り組むことで学校への帰属意識を芽生えさせる。また、SNSを活用した情報発信を行う。(新)</p> <p>イ 生野区役所と連携した「IKUNO未来教育ネットワーク」に参画し、地域社会の構成員として、地域の活性化・発展に寄与する。</p> <p>ウ 生徒会係を中心に、部活動のPR活動を積極的に行い、活性化に向けた取組みを推進する。</p> <p>(2)</p> <p>ア 保護者向け公開授業の実施を継続するとともに、PTA活動や学校運営協議会等と連携して、より一層充実した教育活動となるように努める。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 学校説明会、体験入学を実施し、中学生参加数のべ100名以上をめざす。 [R4:100人]</p> <p>イ 教員研修会やワークショップを年間5回以上実施する。</p> <p>ウ 部活動加入率 30%以上を維持する [R4:31%]</p> <p>(2)</p> <p>ア 保護者向け学校教育自己診断「学校は、授業や学校行事等の情報提供について努力をしている」の肯定的な回答を90%以上維持する。 [R4:93%]</p>	<p>ア 学校説明会、体験入学を実施し、中学生参加数のべ92名だった。(△) ・体験入学・学校説明会等で生徒がキャスト役として来校者をエスコートし、本校の良さを伝えた。中学校教員向け説明会を新たに2回実施した。 ・週に1回以上学校のホームページを更新し、魅力を発信した。</p> <p>イ 教員研修会やワークショップを年間5回以上実施した。(○)</p> <p>ウ 部活動加入率35%に向上した。(○)</p> <p>(2)</p> <p>ア 保護者向け学校教育自己診断「学校は、授業や学校行事等の情報提供について努力をしている」の肯定的な回答93%だった。(○) ・「学校のホームページ等をよく見る」という保護者アンケートの回答が51%。</p>

府立生野工業高等学校

	<p>(3)健康や体力を保持増進する力を育成する。</p> <p>ア これまでの経験を活かし、学校保健のさらなる充実を図るとともに、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を徹底する。</p> <p>イ アレルギーに対する知識を高め、非常時に備える。</p> <p>(4)生徒の防災意識と危機管理能力を高める。</p> <p>ア 防災教育を徹底することで、生徒の防災についての意識を向上させる。</p>	<p>(3)</p> <p>ア 校内に危険な場所や汚れている場所がないかを確認し、危険の排除や校内美化を図る。また、新型コロナウイルス感染症感染予防対策を継続して実施する。特に、生徒並びに教職員一人ひとりができる基本的感染予防対策（手洗い・手指消毒、換気、ソーシャルディスタンス）を徹底するなど、積極的に啓発活動を行う。</p> <p>イ 食物アレルギーの対応マニュアルを策定・見直しを行い、校内研修等を実施するなど、緊急時の対応に備える。</p> <p>(4)</p> <p>ア 防災マニュアルを更に見直すとともに、防災教育を徹底することで、生徒の防災意識と危機対応能力を高めさせる。</p>	<p>(3)</p> <p>ア 学期末ごとに、教職員による校内安全点検を実施する。〔年間3回〕</p> <p>イ 食物アレルギー等の教員向け研修を年1回実施する。(新)</p> <p>(4)</p> <p>ア 避難訓練等、防災に関する行事を年間2回以上実施する。〔R4:2回〕</p>	<p>(3)</p> <p>ア 各学期末に、教職員による校内安全点検を実施した。また、毎朝の生徒の健康観察を行い、生徒の健康管理に努めた。</p> <p>・学期末ごと（年間3回）に、教職員による校内安全点検をすることで、危険個所を早期に発見し、リストアップをすることができた。建物の老朽化は深刻で、全てに対応するには予算面で課題が多い。(○)</p> <p>イ 食物アレルギー等の教員向け研修を年1回実施した。(○)</p> <p>(4)</p> <p>ア 避難訓練等、防災に関する行事を2回実施した。(○)</p>
4 教員の資質向上と学校の組織力向上	<p>(1)共に研鑽しあえる職場づくり</p> <p>ア OJTを推進し、お互いが学びあえる教員集団の育成をめざす。</p> <p>イ コンプライアンスの徹底やハラスメント撲滅、体罰防止等について積極的に啓発活動を行い、教員の資質向上に努める。</p> <p>ウ 専門的な知識技能を備えたリーダー育成を行う。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 豊かな経験を持つ教員が経験年数の少ない教員に対して気軽にアドバイスする雰囲気を作成する。</p> <p>イ コンプライアンスの徹底やハラスメント撲滅、体罰防止等の啓発活動を積極的に行う。また、毎月の学校安全衛生委員会を中心に「働き方改革」について取り組み、全校一斉退庁日を毎週1回設定する。</p> <p>ウ 研修等を通して ICT 活用指導力の向上に努める。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 外部講師を招いて授業力向上に係る教員研修会を年間1回以上開催する。〔R4:1回〕</p> <p>イ 時間外勤務月80時間以上の教職員を教職員全体の10%以下にする。〔R4:7%〕</p> <p>ウ インターネット関連企業の認定トレーナーを取得するために、1名以上に関連する試験を受験させる。(新)</p>	<p>(1)</p> <p>ア 外部講師を招き授業力向上教員研修会を1回開催し、授業力向上に努めることができた。(○)</p> <p>イ 時間外勤務月80時間以上の教職員は教職員全体の13%だった。(△)</p> <p>・サービスに関する校内研修会を3回実施し、教員の服務規律の徹底に努めた。</p> <p>ウ インターネット関連企業の認定トレーナー(レベル2)に2名合格した。(○)</p> <p>・教室の壁を全面ホワイトボード化し、ICTの活用の促進を行った。</p>